# 三井中央高校の教育内容の特色の継承・発展について

## 1　経過

①　久留米市高校のあり方検討委員会（委員長 永田 見生 久留米大学理事長）による意見報告書等を踏まえ、久留米市・小郡市・朝倉市・大刀洗町の議会の議決に基づき、三井中央高校は令和７年度末に閉校することが決定しました。

②　報告書等では、三井中央高校の教育内容の特色を久留米市立高校で継承・発展する旨示されました。

そのため、有識者、市立高校の保護者及び同窓会で構成する久留米市立高校教育検討委員会で承認された「三井中央高校の教育内容の特色の継承・発展に関する基本方針」に基づき、３高校による検討を経て、次のとおり対応したいと考えています。

## 2　取組概要

| 基本方針１ | ＩＣＴの活用による新しい教育活動 |
|---|---|

### (1)　三井中央高校の取組

授業や学校行事、国際交流、公開授業、休校時に活用しているほか、校務の効率化を進めています。また、Google 認定教育者に関する教員の資格取得に取り組んでいます。

### (2)　市立高校での継承・発展

①　市立高校も同様の活用をしている中で、教員のさらなるスキルアップを図るための資格取得を推進していきます。

| Google 認定教育者 | 教育情報化コーディネーター |
|---|---|
| Google for Education Teacher Center | itce |

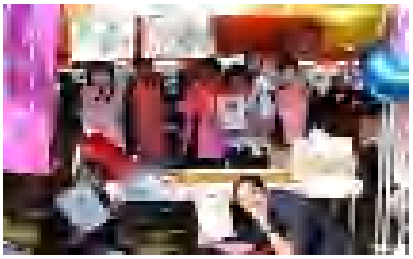
②　教育活動では、市立高校の特色に応じて次のような分野の充実・発展を図ります。

| | |
|---|---|
| STEAM 教育 | 科学・技術・工学・芸術・数学分野の教科横断的な教育 |
| EdTech | バーチャル技術やビッグデータ等のテクノロジーを活用した教育 |
| AI 活用 | 教材作成等の授業支援や研修による教員のスキルアップ |
| スポーツ | 部活動での動画やオンラインによる専門的なトレーニング指導 |
| E-Sports | 社会的ニーズが高いプログラミング教育 |
| 異種学校連携 | 大学・専門学校・中学校との連携 |

| 基本方針２ | 地域との連携及び情報発信 |
|---|---|

**(1)　三井中央高校の取組**

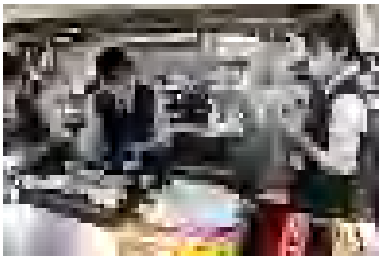
地域行事との関わりとしてコスモスフェスティバルやボランティア活動等を、授業と地域の関わりとして１年生時の学習「産業社会と人間」等を実施しています。



三井中央高校
コスモスフェスティバル

**(2)　市立高校での継承・発展**

①　南筑高校「商店街活性化プロジェクト」や久留米商業高校「筑後うどんを盛り上げるプロジェクト」のほか、各種ボランティア活動を行っています。



南筑高校
商店街活性化プロジェクト



久留米商業高校
筑後うどんを盛り上げるプロジェクト

②　令和６～７年度は、コスモスフェスティバルの三井中央高校の活動に市立高校生徒がスタッフとして参画し、情報発信等のノウハウを学びました。

令和８年度以降は、参加した生徒と三井中央高校で勤務した教員等を中核とし、市立高校の特色に応じた地域との関わりを拡充していきます。

| 基本方針３ | 地域の暮らしを守る人材の育成と進路確保 |
|---|---|

**(1)　三井中央高校の取組**

医療・看護・栄養・保育分野等を中心とした教育課程（総合学科６５分授業２学期制）を実施しています。

**(2)　市立高校での継承・発展**

南筑高校では、地域とのつながりや探究活動を重視した教育課程等を、久留米商業高校では、商業高校ならではの実践的・課題解決型の授業（６５分授業２学期制）を実施しています。

三井中央高校の勤務経験がある市立高校教員の知識経験も活用し、地元企業との関係を深めるとともに、探究活動等を通して郷土への愛着を培った生徒の進路確保や資格取得につなげます。

**令和６年度卒業生の主な進路状況**

| | 大学 | 短大 | 専門学校 | 就職 | 公務員 |
|---|---|---|---|---|---|
| 三井中央 | 16 | 2 | 36 | 26 | 1 |
| 南筑 | 110 | 8 | 76 | 17 | 5 |
| 久留米商業 | 147 | 11 | 26 | 26 | 22 |
| 計 | 273 | 21 | 138 | 69 | 28 |

| 基本方針４ | 生徒の多様性の尊重と困りごと解消の支援 |
|---|---|

**(1)　三井中央高校の取組**

教職員やＳＣ・ＳＳＷによる生徒支援委員会で、対象生徒の情報共有や支援の検討を行い、長期欠席や履修困難が想定される場合は、個別の教育課程により、専用の別室で支援しています。また、中学校校長による推薦で不登校等の状況にある生徒が入学しています。

**(2)　市立高校での継承・発展**

子どもの困りごとが多様化する中、三井中央高校が特に取り組んできた不登校・不登校傾向にある生徒の学びの場の確保については、県立・私立高校、民間の通信制高校等も進学の主要な選択肢になっているため、県・市・民間の適切な役割分担によって、多様な支援に努めます。

市立高校の取組

三井中央高校の取組を継承し、長期欠席の生徒による通信教育の授業成果を単位として認める支援制度を南筑・久留米商業でも開始しました。［R6～］

南筑高校へのスクールカウンセラー派遣を月２回から月４回に拡充しました。［R6～］（久留米商業高校も月４回派遣）また、生徒の心身の不調等に対応する養護教諭について、正規教諭の他に助教諭を配置して２人体制にしています。

一般入試において長期欠席者特例措置を導入し、中学３年生時の評定を資料とせず、学力検査や面接の結果、志願書等で総合的に選考することとしました。［R7 入学者～］（県立高校も実施）

久留米市の取組

　中学生、高校中退者、保護者等を対象とする「定時制・通信制高校等説明会」を開催しています。[R5～]



　実際の在校生の話や支援団体の講話、各学校の個別相談を設けています。
　令和７年７月及び 12 月の開催で、計 287 人の参加がありました。

　不登校の長期化・早期化が見られるため「小中学校の校内支援教室の設置・拡充」「小学校の児童支援サポーターの配置」「校外教育支援教室の低学年児童の受入れ」「学習アプリを活用したオンライン支援」「フリースクール利用開始時の補助」等を行い、小中学校段階からの支援を拡充しています。

≪参考≫

県立・私立高校の取組

　不登校生徒に対応した学びの多様化学校として、三井中央高校と同じ圏域の県立小郡高校の定員が１学級分増員され「みらい創造コース」が開設されました。[R6～]




　県立明善高校（定時制）では、中学校の不登校経験者が通学しています。
　三井中央高校の圏域から入学できる県立博多青松高校の通信制課程の定員も増員（100 人）されました。[R6～]

　近隣の久留米信愛高校及び柳川高校では通信制課程が開設されました。[R6～]